

CASBEE[®] - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)江井島病院新築工事	階数	地上4F
建設地	兵庫県明石市大久保町西嶋字中スジ434番5	構造	S造
用途地域	一種住居地域、防火地域指定なし	平均居住人員	300人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年11月30日 予定	評価の実施日	2022年09月24日
敷地面積	8,782 m ²	作成者	奥野 弘昭
建築面積	2,062 m ²	確認日	2022年09月30日
延床面積	5,917 m ²	確認者	理事長 土井 直



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)								
<p>BEE = 1.1 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>① 参照値</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>② 建築物の取組み</td> <td>81%</td> </tr> <tr> <td>③ 上記+②以外の</td> <td>73%</td> </tr> <tr> <td>④ 上記+</td> <td>73%</td> </tr> </table> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	① 参照値	100%	② 建築物の取組み	81%	③ 上記+②以外の	73%	④ 上記+	73%	
① 参照値	100%									
② 建築物の取組み	81%									
③ 上記+②以外の	73%									
④ 上記+	73%									

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 2.6</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.5</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.9</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.4</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.3</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.9</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルCO₂排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。</p>	<p>その他</p> <p>特になし。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>開口部遮音性能:T-2以上。そして、2.5%≦[昼光率]。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>個室10㎡/床で、かつ多床室8㎡/床以上。そして、住居・宿泊部の天井高2.5m以上。また、建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>特になし。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>BPIm=0.85。そして、BEIm=0.68。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。そして、LGSとOAフロアを使用している。また、ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>ライフサイクルCO₂排出率73%</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される